

積水化学グループのサステナビリティ (ESG 基盤強化)

積水化学グループは「事業を通じた社会課題の解決」と「事業プロセスにおける社会への責任」を通じて、「世界のひとびとの暮らしと地球環境に貢献する」というグループビジョンの実現を目指しています。積水化学グループにとって、事業活動を通じて社会に役立つ価値を創造し貢献することがCSRであり、社是“3S精神”の実践です。そして、CSRを経営戦略の中心となる取り組みととらえることで、企業経営の質を高められると考えています。

こうした認識のもと、持続的成長と革新のために、ESG経営に軸足を置いてCSRに真摯に取り組み、変革や進化を続けていかなければならないと考えています。

2020年5月に策定した長期ビジョン「Vision 2030」においても、「Innovation for the Earth”～サステナブルな社会の実現に向けて、LIFEの基盤を支え、“未来につづく安心”を創造する～”ことをビジョンステートメントとしています。そして、その戦略として製品・事業の革新による現有事業の拡大と、新事業基盤の創造・獲得による新たな事業の創出をより高いレベルで両立させることを目指していますが、その中心に据えているのがESG経営です。

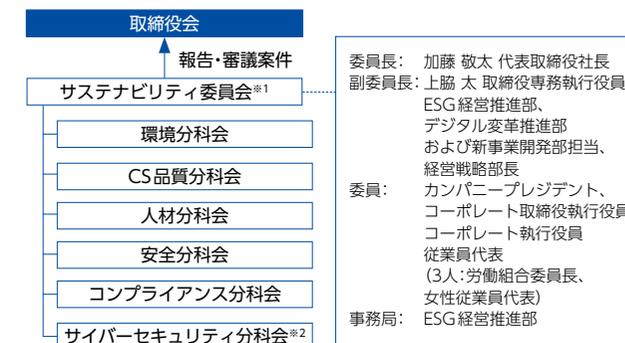
ESG経営に取り組むにあたっては、積水化学グループの重要課題(マテリアリティ)を、2017年度からスタートした中期経営計画「SHIFT 2019 -Fusion-」で特定し、これまで取り組みを推進してきました。2020年度からは、長期ビジョンの実現に向けてさらにESG経営を強化していく必要があると考え、利益創出力、社会課題解決貢献力、持続経営力の観点から重要課題を見直し、内部統制、DX、環境、人材、融合に軸足を置いたESG経営を進めていきます。

また、ESG経営を進めていくための社内の推進体制としては、これまでCSRを議論する場として「CSR委員会」を設けていましたが、2020年度以降は、ESG経営のもと、将来当社グループが直面する可能性のあるリスクや機会を抽出し、優先順位を付けて方針や施策を議論する場として「サステナビリティ委員会」と改め、取り組みを加速させていきます。またその分科会として、これま

での「環境」「CS品質」「人材」「安全」「コンプライアンス」に加え、サイバー攻撃対策の高度化推進を目的に「サイバーセキュリティ分科会」を新たに設置し、6分科会体制としました。

※積水化学グループのCSRに関する取り組みの詳細はCSRレポートをご覧ください。
<https://www.sekisui.co.jp/csr/report/index.html>

サステナビリティ委員会・分科会体制(2020年度～)



※1 CSR委員会を2020年度からサステナビリティ委員会へ改称
 ※2 2020年度に新設

ESG重要課題(2020～2022年度)

ステークホルダーにとっての重要性が非常に高く、かつ積水化学グループの経営にとっての重要性も非常に高い課題



内部統制

- ・重大インシデントの抑制(安全、品質、経理、法務・倫理、情報管理)
- ・リスクマネジメント、危機管理、BCP

▶P.52



デジタル変革(DX)

- ・見える化・標準化(業務標準化、ERP導入、インフラ・ネットワーク刷新)
- ・生産性向上(自動化/無人化、デジタル・ICT・AI利用による全業務効率化)
- ・高度化(事務管理、内部統制、サプライチェーンの高度化)

▶P.47



環境

- ・環境課題の解決への寄与
(気候変動の緩和・適応、サーキュラーエコノミーの推進、水リスクの低減)

▶P.40



人材

- ・挑戦する風土・従業員積極参画への変革(文化醸成、人材育成、制度設計)
- ・働き方改革推進
- ・ESG人材力向上

▶P.45



融合

- ・オープンイノベーションの促進
- ・サステナビリティ貢献製品の市場拡大と創出

▶P.48